

化学肥料原料の輸入相手国，輸入量

肥料「三要素」のうち、窒素（N）は植物，特に葉の成長を，りん酸（P）は開花結実を，加里（K）は根の発育を促す。

化学肥料は，一般に化石燃料（主に天然ガス）や鉱物資源（りん鉱石，加里鉱石等）が原料として使用される。天然ガス由来のNの原料である尿素，N・P原料のりん安（りん酸アンモニウム），K原料の塩化加里（塩化カリウム）は，ほぼ全量を輸入に依存している。また，世界的にその資源が偏在している。りん鉱石は中国，モロッコ及びエジプトの3か国で世界の経済埋蔵量の約8割，加里鉱石はカナダ，ベラルーシの2か国で約7割を占めている。

そのため，表-1に示すように輸入相手国も偏在している。尿素はマレーシアから60%，中国から25%，りん安は中国から76%，モロッコから18%となっている。また，ロシアやベラルーシから一定割合を輸入していた塩化加里についても，ウクライナ侵略の影響によりカナダからの比重が高まり，その輸入割合は80%となっている。

塩化加里はカナダが80%と主な輸入相手国となっている。令和3年秋以降，中国による肥料原料の輸出検査の厳格化のほか，ロシアによるウクライナ侵略の影響により，我が国の肥料原料の輸入が停滞したことを受け，代替国から調達する動きがみられる。

世界における肥料の消費量は年々増加しており，我が国の肥料消費量は，世界全体の消費量の0.5%を占める。因みに，1位は中国22.6%，インド16.2%，ブラジル10.2%，アメリカ9.9%となっている。我が国の農業経営において，経営費に占める肥料費の割合は約6～13%であるが，化学肥料（高度化成肥料）は，製造コストの約6割を原材料費が占めている。原料の多くを輸入に頼っていることから，肥料価格は，化学肥料原料の国際価格や運送費の影響を大きく受ける構造となっている。（農林水産省 肥料をめぐる情勢 令和5年5月）（K.O）

表-1 化学肥料原料の輸入相手国、輸入量（令和3年肥料年度：令和3年7月～令和4年6月）

尿 素 (N)			りん安 (N・P)			塩化加里 (K)		
国名	輸入量(t)	割合(%)	国名	輸入量(t)	割合(%)	国名	輸入量(t)	割合(%)
マレーシア	189,000	60	中 国	358,000	76	カナダ	395,000	80
中 国	77,000	25	モロッコ	84,000	18	イスラエル	41,000	9
サウジアラビア	12,000	4	アメリカ	16,000	3	ベラルーシ	16,000	3
ベトナム	9,000	3	ヨルダン	11,000	2	ロシア	16,000	3
その他	9,000	3	その他	4,000	1	ラオス	9,000	2
国 産	17,000	5				その他	14,000	3
全輸入量	472,000		全輸入量	472,000		全輸入量	491,000	